

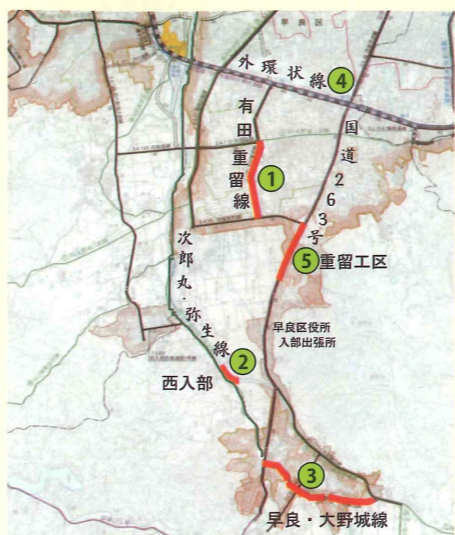
大原やすお議員 初の一般質問

自民党市議団を代表し

国道263号の 渋滞緩和対策について

県議から転身した大原市議、さつそく6月議会において自民党市議団を代表して議場の演壇に立ちました。質問と答弁の骨子は以下のとおりです。

【質問】 国道263号は、福岡市と佐賀市を最短ルートで結ぶ主要幹線道路としての役目を果たしていますが、近年は渋滞がひどく沿線住民に不便をきたしています。そこで渋滞緩和に向けた道路整備の状況と、早良区南部における国道と周辺道路のネットワーク化に



どのように取り組んでいくのか、さらには同国道の機能強化についてお尋ねします。また県道、金武飯場線の整備を要望します。

【答弁】 渋滞対策については、国道のバイパス的役割を担う路線として①「有田・重留線」、②「次郎丸・弥生線」の西入部工区、③国道と那珂川町とを結ぶ「早良大野城線」は平成26年度完成をめざし整備を行っている。④野芥口交差点については外環状道路の交通実態調査の結果をみて対策を検討していく。⑤重留工区、830mについては平成23年度完了を目指し歩道整備を行っている。引き続き都市計画道路の計画的な



整備を進め、263号を基幹とした道路のネットワーク化に取り組んでいく。

早良区南部における運動公園・グラウンドの整備について

【質問】 早良区では野球やソフトボール等の大会が出来る大きなグラウンドは百道中央公園しかなく、全市的に見た場合、施設の配置状況は、はなはだ不均衡であります。その是正と整備が必要であることを指摘させていただき

【答弁】 早良区南部はほとんどが市街地調整地であり、農地などとの調整もあることから、整備の手法については関係局とも協議しながら調査していく。

ハイキングコースの整備について

【質問】 早良区南部の自然豊かな背振山系を生かしたスポーツ・レクリエーションを振興するという観点からハイキングコースの整備と共に駐車場・トイレの設置について要望します。また森林基幹道路のコース利用と早期完成について要望します。



【質問】 近年、中山間地域を中心にイノシシによる農作物被害が拡大し農業意欲が削がれ深刻な状況になってきていますが、その対策についてお伺いします。

【答弁】 進入防止対策と捕獲を複合的に実施するために、ワイヤーメッシュ柵等の防護柵の整備のため、国の「鳥獣被害緊急総合対策事業」の周知を図る。捕獲活動として猟友会などで組織されたものを支援すると共に、箱罠の設置箇所を増やす。平成23年度はイノシシによる農作物の被害額を20年度の7割以下を目標として達成に向け努力していく。

詳細は福岡市のホームページをご覧ください。



大原市議、常任委員会の 第2委員会に所属

福岡市議会には行政の各部門にに応じ、五つの常任委員会があり、大原市議は第2委員会に所属しています。担当内容は子ども育成、社会福祉、保健衛生、教育などで、こども未来局、保健福祉局、および教育委員会が主管する事項について詳細に調査や審査を行います。7月下旬、今年4月に竣工した高崎市総合保健福祉センター(写真)他2施設を視察。とても参考になりました。この「常任委員会」は、第2委員会のほか、第1委員会は国際交流、財政、第3は商工業、農林水産、第4は住宅、都市計画、第5はごみ、環境保全などです。



第2委員会で高崎市総合保健福祉センターを視察



再生が進められている室見川 (写真は矢倉橋付近)

室見川を再生する会 広域的視点で推進

「室見川を再生する会」が数年前に組織され活動されています。これまで漁業関係者や「福岡県ホタルの会」「メダカを守る会」など多くの

人たちによって環境浄化や水生動物の育成などが行われてきました。さらに広域的な視点で推進していくというわけです。幹事は山崎惟義氏(福

里やまと町をつなぐ 竹林の再生活動

岡大学)。県土木部でも「郷土の水辺整備事業」を展開中で、大原市議もこれに加わり県・市とのパイプ役としても協力したいと張り切っています。

早良区南部と市街地との交流を積極的に展開しているユニークな組織があります。「NPO法人 里まちサイクルコミュニティ」です。会員は40名で、里山の荒れた竹林を整備しながら不要になった孟宗竹を破砕機にかけてチップ状にする。これを加工して堆肥とし、町の農家や家庭菜園の方々に使ってもらっています。また、この堆肥で繁殖したカブトムシなどは高取、原飯倉校区の子供たちにプレゼントして喜ばれています。



孟宗竹は破砕機にかけてチップ状になっています。これは福岡市の「エコハッスル事業」の一環でもあり、大原議員も参加し、しっかり汗をかいています。